



# NEWS



## CONTENTS

表紙：薬剤部 教授 矢野 貴久

- 中表紙
  - パリパラリンピック車いすテニス男子ダブルス銀メダル
  - ・三木拓也選手より、表敬訪問を受けました！
  - ・医療機器診療支援センターの設置について
- 裏表紙
  - ・麻酔科外来がリニューアルしました！
  - ・研修会・講演会・セミナー開催情報

## 麻酔科外来がリニューアルしました！

麻酔科 診療科長 にかい てつろう  
二階 哲朗  
もとおか あきひろ  
外来医長 本岡 明浩

12月17日(火)より麻酔科外来が3階から1階へ移転しました。

麻酔科外来では手術を受ける方の術前外来やペインクリニックを行っています。

術前外来では、手術を受ける患者さんの全身状態を確認し、必要に応じて追加の検査や他科の受診をお願いし、より安全な手術を目指して取り組んできました。ペインクリニックでは帯状疱疹後神経痛や遷延性術後痛などあらゆる痛みの診断、治療を行っています。また、緩和ケア病棟への入棟面談も行います。

新しい外来では、看護師オリエンテーション室、口腔ケア室、栄養相談室、薬剤師面談室なども併設しました。口腔内衛生と栄養状態は、術後の合併症や回復だけでなく退院後の生活にも直結します。内服薬の確認も手術前の準備に不可欠です。それら周術期に関わる各専門職が集結し、より効果的なサポートが可能になりました。

当院では引き続き「安心・安全な手術」をモットーに、麻酔科と周術期の術前外来に力を入れていきます。



問い合わせ先 麻酔科 外来 TEL:0853-20-2393

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2025年2月15日～3月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
2月16日(日) 14:00～16:00	第19回脳卒中市民公開講座 脳卒中のチーム医療	看護学科棟1階 N11講義室	医療 本学 一般	島根大学医学部 脳神経外科学講座
12/1(日)～ 2/28(金)	令和6年度 第3回 肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	医療 一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
3月14日(金) 14:30～15:30	第4回 誰でも参加できる糖尿病教室	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。





## パリパラリンピック 車いすテニス男子ダブルス銀メダル 三木拓也選手が小児科病棟を表敬訪問されました！

総務課企画調査係

2024年10月10日(木)、車いすテニスプレーヤーで2024年パリパラリンピック男子ダブルス銀メダルを獲得した三木拓也選手がメダル獲得の報告に来院されました。

三木選手は鳥根県出雲市出身で、高校3年生のときに骨肉腫を発症し、手術・治療のため約1年間当院に入院しました。入院中にプロ車いすテニスプレイヤー国枝慎吾さんの動画を見て車いすテニスを始め、4大会目のパラリンピック出場で念願のメダルを獲得しました。

当日は小児科病棟の入院患者さんをはじめ、主治医だった小児科の竹谷健教授や整形外科の山本宗一郎准教授、当時病棟で三木選手を看護していた看護師など、大勢の職員が出迎えました。三木選手からメダル獲得の報告と応援のお礼が述べられたあと、職員や入院中の子どもたちと楽しく談笑したり、質問を受けたりしていました。

希少がんである骨肉腫を乗り越え、故郷へ錦を飾った三木選手。入院中の子どもたちや職員に希望を与えてくださったことに感謝し、これからも応援してまいります。



整形外科 山本医師(左)、三木選手(中央)、小児科 竹谷教授(右)

問い合わせ先 総務課企画調査係 TEL:0853-20-2531



## 医療機器診療支援センター(ME-MSC)の設置について

医療機器診療支援センター センター長 わたなべ ひろあき  
渡部 広明

医療機器の管理・メンテナンスとその専門的運用は先進的医療の実施に欠かすことのできない時代となっております。当院ではこれまで医療機器の管理や臨床工学技士の活動をMEセンターで行って参りました。近年の高度化する医療の中でその業務は多岐にわたり、より専門性の強い業務のニーズも出ております。

こうした背景のもとに、従来のMEセンターの機能を「管理」と「診療支援」に分業する形として、その後者を担当する部門として「医療機器診療支援センター(ME-MSC)」を設置いたしました。なお、管理を担当する部署としては、「医療機器管理センター」が新設されました。

ME-MSCでは臨床工学技士が中心となり、院内のME機器の払い出し所在部署等をPC等で一元管理し機器の効率的活用を促進するとともに、高度化するME業務をより安全で効率的に運用する役割を担っています。また若手臨床工学技士のキャリアアップのためにも幅広い業務を実践できる人材の育成を推進し、広がりつつある臨床工学技士の新たな領域への業務も積極的に推進していくことでタスクシフトにも貢献できる体制を構築中です。

安全で安心な先進医療の提供を支援する中核部門を強化することで、より質の高い医療提供に貢献してまいります。



人工心肺業務



ECMO業務



人工呼吸器業務



血液浄化業務

問い合わせ先 医療機器診療支援センター TEL:0853-20-2489



島大病院ニュース 2025年2月

# お知らせ



## アフェレシス療法の適応拡大ならびに 腎代替療法外来のご紹介

血液浄化治療部 部長 かんだ たけし  
神田 武志

血液浄化治療部の診療内容は、急性・慢性腎不全に対する血液透析療法、腹膜透析療法、血漿交換療法、白血球除去療法、腹水濾過濃縮再静注療法、免疫吸着療法、LDL 吸着療法、および腎移植の周術期管理です。現在医師7名に加えて、臨床工学技士4名、看護師4名、助手1名のチームで運営を行っています。

アフェレシス療法とは血液中の病気の原因物質を分離して除去する“血液浄化療法”の一種です。そのアフェレシス療法のなかで、LDL 吸着療法はこれまで、家族性高コレステロール血症、閉塞性動脈硬化症、巣状糸球体硬化症、糖尿病性腎症に対して保険適用が認められておりましたが、2024年より膜性腎症、微小変化型ネフローゼ症候群に対して保険収載されました。また、吸着式潰瘍治療法（レオカーナ®）が血行再建術の適応がない閉塞性動脈硬化症の患者さんに使用可能となっておりますので対象となる症例がございましたらご依頼ください。

また、近年の高齢化率の上昇に伴い、特に超高齢者で末期腎不全に対する腎代替療法の選択が重要な課題となっています。そのため金曜日午後に腎代替療法外来を設置し、医師、看護師と協力して血液透析、腹膜透析、腎移植、保存的腎臓療法（conservative kidney management: CKM）について説明しています。患者さん、ご家族、医療チームが各治療のメリットデメリットならびに患者さんご家族の懸念事項や意向を共有することにより、腎代替療法選択の意思決定を支援しています。

腎代替療法外来への患者さんのご紹介をお待ちしております。何卒よろしくお願い申し上げます。

問合せ先 血液浄化治療部 TEL：0853-20-2460



2025年2月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年2月

# お知らせ

## 膠原病・リウマチ診療の未来を支える連携と挑戦

膠原病内科 診療科長 いちのせ くにひろ  
一瀬 邦弘

膠原病・関節リウマチの患者さんは高齢化が進み、骨粗鬆症、慢性腎臓病、脂質代謝異常、高血圧症、糖尿病など、さまざまな合併症を抱えることが多くなっています。これらの合併症管理は膠原病診療において欠かせない重要な要素ですが、大学病院ですべてを担うのは難しく、地域の医療機関や開業医の方々と協力しながら、効率的かつ高度な診療体制を構築する必要があります。

当院膠原病内科では、島根県全域の膠原病・リウマチ患者さんの入院・外来診療を担い、特に複雑な合併症を伴う患者さんの診療において、地域の中核医療機関である島根県立中央病院や松江赤十字病院と連携し、質の高い医療の提供を目指しています。

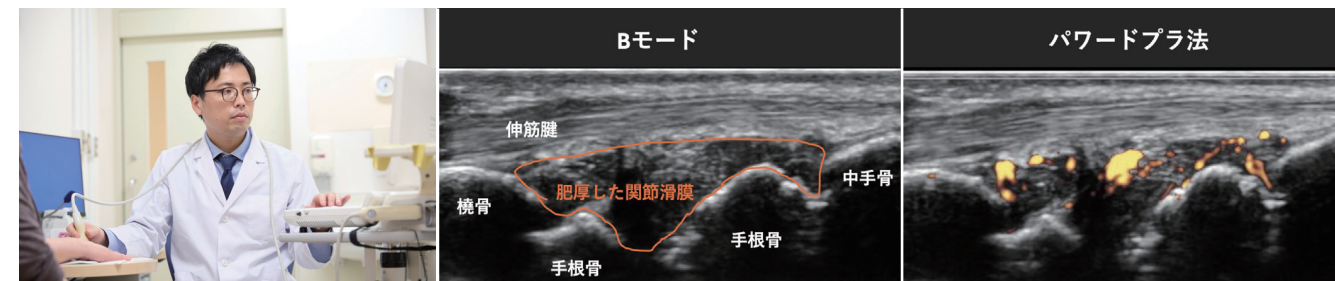
さらに、診療の質向上のためには、診断・治療機器の充実が欠かせません。例えば、関節エコーは患者さんと医師が画像を共有しながら病状を理解し、治療方針をともに決定する「共同意思決定（SDM）」において大きな役割を果たします。これにより、患者さん自身が病態を視覚的に理解しやすくなるだけでなく、治療への納得感や安心感も向上します。また、若手医師にとっても関節リウマチ診療の理解を深める教育ツールとして重要です。

このような取り組みを推進するため、現在、関節エコー導入や若手医師の育成を目的としたクラウドファンディングの実施を検討しています。

膠原病診療の未来を見据え、地域の皆様とともに、患者さんにとってより良い診療体制を築いてまいりたいと考えています。今後とも温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



膠原病内科 診療科長 一瀬邦弘



エコーをしている 本田医師

手首の関節エコー検査

問合せ先 膠原病内科 事務室 TEL：0853-20-2196



2025年2月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ



## 総合診療・地域医療実習での学び

地域医療教育学講座 教授 ながお たいし  
長尾 大志

島根大学の重要なミッションの一つに地域医療に資する人材育成があります。また、本学医学部の目指すべき理念である『医の炎』と『医の扉』に再定義された「地域と世界を見つめる」においても、「住民の声に耳を傾け、地域と世界にある課題を学び、社会に開かれ、時代に応じたより良い教育・研究・診療を提供できる、柔軟な医学部を創る」とあります。

地域医療教育学講座はそのミッション遂行のため、総合診療・地域医療実習を総合診療医センター・総合医療学講座・地域医療支援学講座と共同して運営しております。これは医学部医学科4年生から5年生にかけて行われる臨床実習の中で、4週間連続で地域の病院に医学生を派遣して行うものとなります。

医学生は大学での実習とは異なり、患者さんや地域の方々に近いところで、より能動的に自主的に診療に参加することにより、医師としての知識・技能はもちろんのこと、患者さんを担当するとはどういうことか、その患者さんにとって医学的以外に解決すべき問題はないのかということや、へき地・過疎地における様々な問題に直面し真剣に考える機会を得ます。

終了時の振り返り発表や表情を見ていると、たいへん多くの学びを得た様子がわかります。優秀な振り返り発表は表彰し、地域医療教育学講座のHP(学内限定)、ならびに学外用HPでご覧いただけるようにしておりますので、是非ご覧いただきたいと存じます。

### 写真1 総合診療・地域医療実習第11クール発表会・アワード受賞プレゼン・津和野共存病院

#### 実習内容

- |  |   |
|--|---|
| <b>【院内実習】</b><br>> 病棟管理<br>> 外来見学<br>> 救急対応<br>> 検査室見学<br>> 採血、ルート確保<br>> まめネットを用いた褥瘡処置<br>> 各種カンファレンス<br>> 介護認定見学 | <b>【院外実習】</b><br>> 巡回診療<br>> 訪問診療<br>> 訪問リハ<br>> 訪問看護<br>> 退院前住宅訪問<br>> サロン活動<br>> 介護老人保健施設「せせらぎ」見学<br>> 特別養護老人ホーム「星の里」、「シルバーリーフ」見学 |
|--|---|

津和野共存病院実習の発表

### 写真2 総合診療・地域医療実習第9クール発表会・アワード受賞プレゼン・飯南病院

#### 2週間目(9.30~10.4)

2週目は入院患者さんを担当させていただくことになった。訪問リハビリや施設回診、訪問診療など地域に出かけることも多く、様々な診療の形態を見学できた。

9/30 AM: 小児科外来 PM: 大塚カメラ 大学講義	10/1 AM: 外科外来 PM: 施設回診 (あかぎの里)	10/2 AM: 訪問リハビリ PM: 救急・時間外	10/3 AM: 胃カメラ・エコー PM: 救急・時間外 大学Feed Back 院内研修	10/4 AM: 全島診療所 PM: 看護回診 訪問診療 入院カンファ
--	---	----------------------------------	---	---

飯南病院実習の発表



学外用 HP  
<http://tnagao.sblo.jp/article/191188855.html>

問合せ先 地域医療教育学講座 TEL: 0853-20-2542



# ご報告



## 国宝松江城マラソン2024 メディカルランナーとして並走しました!

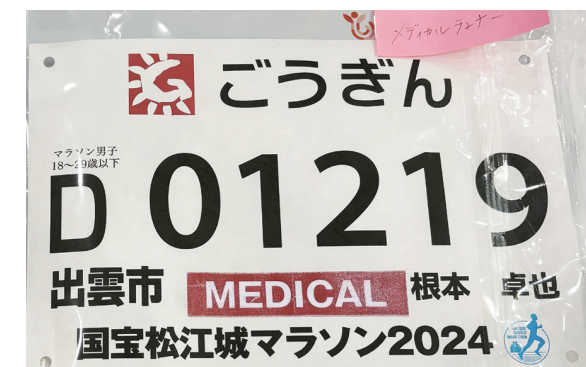
脳神経内科 医師 ねもと たくや  
根本 卓也

2024年12月1日(日)に松江市で開催されました国宝松江城マラソン2024にメディカルランナーとして参加しました。メディカルランナーとは、医師、看護師、救急救命士の資格を持ち、一般ランナーとして参加しながら体調不良なランナーへの声掛けや救護班とともに一次救命処置を行うものです。

2023年同大会では17km地点で心停止状態になったランナーがおられましたが、ランナーとして参加していた医療従事者の迅速な一次救命処置によって、呼吸を再開した状態で救急隊への引き継ぎ、その後も後遺症なく社会復帰ができたとのことでした。このような事案もあり、2024年大会は初めてメディカルランナーが導入された大会となりました。

2024年大会は幸い、大きな傷病者なく大会を終えることができました。当日は、ランナーとしてマラソンを楽しみつつ、問題の20km付近では特に周囲のランナーの様子に気を配りながら完走することができました。大会発表では医師6名、看護師4名、救急救命士1名とのことでしたが、実際は当院のスタッフを含めより多くの医療スタッフがランナーとして参加していました。

ランナーの皆さんが安心してマラソンを楽しめる一助となっていれば幸いです。



メディカルランナーのゼッケン  
(MEDICALの文字のあるゼッケンをしています)



メディカルランナーとして参加した筆者(右)と  
隠岐病院の下山田看護師(左)

問合せ先 内科学講座内科学第三 事務室 TEL: 0853-20-2198





# ご報告



# ご報告

## 小児病棟にサンタクロースがやってきました!

## 当院のホームページをリニューアルしました!

総務課企画調査係

病院の顔とも言えるホームページですが、前回のリニューアルから10年近くが経過し、見た目に古さが目立ち、あまり良い印象を与えていないとの声をたびたびいただきました。これを改善すべく、このたびトップページのデザインを中心にリニューアルを行い、2024年10月31日(木)に公開しました。

今回は、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」という病院の理念はもちろん、広報誌「しろうさぎ」のような「やさしさ」が伝わるようなサイトを目指してリニューアルを行いました。誰にでも見やすいページとなるよう、シンプルなデザインにし、全体の文字やアイコンを以前より大きくしました。また、スマホやタブレットといった端末の画面サイズに合わせて最適な表示ができるようレスポンシブデザインを導入しました。さらに、下層ページのデザインも一新しましたが、内容は従来のもを引き継ぎ、管理・更新については事務部各部署がこれまで通り操作できるように配慮しました。

今後も地域の皆さまが必要な情報を見やすく、スムーズに取得できるホームページを目指してまいります。ホームページに関して、分かりにくい、こうした方がよいなどご意見がございましたらぜひお寄せください。どうぞよろしくお願いいたします。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL : 0853-20-2531



12月24日(火)、小児病棟でクリスマス会を開催しました。院内学級の子どもたちは手作り楽器演奏でスタートを飾り、観客にはかわいいマラカスを用意しました。続いて、島根大学の医学生がギター伴奏でクリスマスソングを披露し、リクエスト曲の合唱で大盛り上がり。音楽療法士はエプロンシアターを使った歌とお話を披露し、子どもたちはワクワク。

最後は先生たちの「変身とんねる」で笑顔があふれ、サンタクロースがプレゼントを配布しました。今年はオンライン中継で病室の子どもたちも参加でき、ご家族も喜んでいました。今後も多くの患者さんが参加できる工夫を続けていきます。

問合せ先 小児センター TEL : 0853-20-2616

チャイルド・ライフ・スペシャリスト  
小児科 病棟保育士  
小児科 診療科長

くろさき あかね  
黒崎 あつみ  
つばき 敦美  
樁 たけし  
たけたに たけし  
竹谷 健



## うさぎ保育所クリスマス会

総務課総務係

12月25日(水)にクリスマス会を行いました。当日の朝、登園してきた子ども達は家でもらったクリスマスプレゼントの話をしてこやかにし、保育所にもサンタクロースが来てくれるのを心待ちにしている様子でした。

クリスマス会が始まりみんなでクリスマスソングを歌っていると、リンリンと鈴の音が聞こえてきてワクワクする子ども達。お待ちかねのサンタさんが来てくれました(椎名病院長がサンタさん役です)。子ども達からサンタさんに質問をして答えてもらったり、それぞれの保育室にサンタさんが来てくれて1人ずつプレゼントを受け取ったり、記念撮影をしたりと楽しい時間を過ごしました。

サンタさんにびっくりして涙する子もいましたがプレゼントはしっかりと受け取っていて、その姿もまたかわいかったです。

問合せ先 総務課総務係 TEL : 0853-20-016





# ご報告

## ワークライフバランス週間応募作品の表彰式を行いました

### ワークライフバランス支援室

当院のワークライフバランス支援室は、例年「ワークライフバランス週間」の啓発活動の一環としてワークライフバランスをテーマとした作品の募集を実施しており、「WLB川柳」及び「私の働く源写真」をそれぞれ募集しました。

今回も多数の応募の中、優秀作品等の選出を職員投票及び病院長、医学部長などにより行われ、12月23日(月)に「WLB週間応募作品表彰式」を開催しました。仕事や家庭に関する作品のほか、甲子園で快進撃を見せた大社高校をテーマとした昨今の世相や流行を想起させる作品が多く寄せられました。

当日は、プレゼンターとして椎名病院長、石原医学部長をはじめ、各副病院長、副学部長及び病院長補佐、事務部長も列席し賑やかに行われました。

「ワークライフバランス」は今後ますます重要なテーマとなり、昨今の社会の変化やテクノロジーの発展に伴いその形はより個別化され、新たな方向へ向かっていきます。

当支援室では今後も職員一人ひとりの「仕事と生活の調和」の形を見据えた支援に取り組んでまいります。



川柳応募作品一覧		
賞名	受賞作品	ペンネーム(又は氏名)
椎名病院長賞	ロング後は 時短料理で 巻き返す	めめみかん
和田副医学部長賞	甲子園 定時で退社 推し大社	こっちのたま
大野副病院長賞	残業日 カレーができてた 息子作	内蔵型冷気性レディ
鬼形副病院長賞	帰れます? 気遣う声に感謝沸く	三木 知恵
浦田特別副病院長賞	やったっけ? 去年の記憶 どこへやら	こはち
林病院長補佐賞	鳴り止まぬ家でも母ヘナースコール	のの
一瀬病院長補佐賞	疲れたら こどもにハグして エネルギーチャージ	ママさん
榎病院長補佐賞	推し事があるからお仕事頑張れる	とまと
矢野病院長補佐賞	まだ早い? 老後の余暇を 考える	犬
坂本病院長補佐賞	イクメンの 素質はあるが 彼女無し	もーりん
河村病院長補佐賞	すき焼きよ その日に限って 残業デー	肉・系
藤谷病院長補佐賞	分担ね 仕事も家事も 多職種連携	イチゴとチョコ
鈴木病院長補佐賞	あらいやだ 産後の白衣 キツすぎる	さくら
稲垣病院長補佐賞	掃除に料理 今は子どもに 助けられ	ダイエットは明日から

問合せ先 ワークライフバランス支援室 TEL: 0853-20-2015

### 働く源写真応募作品一覧



# ご報告



## おいしい食事提供に向けて

## 栄養治療室でレシピコンテストを開催しました!

栄養治療室 栄養士長 ひらい じゅんこ  
平井 順子

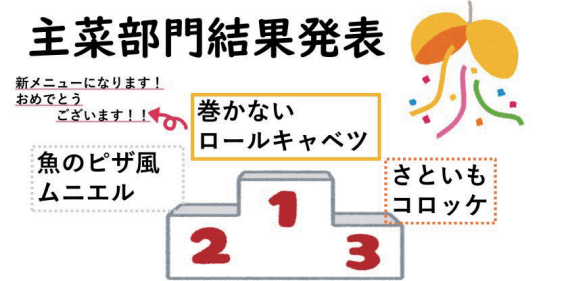
栄養治療室では、患者さんが治療の中でも楽しみとしていただける食事を目指して、旬の食材や行事食を取り入れ、安全でおいしい食事の提供を行っています。

毎月、献立を検討し食材の調整等を行っていますが、献立のマンネリ化が課題となっていました。そこで、レシピコンテストを開催しました。これまで患者さんに提供したことのない献立を考え、「主菜部門」「煮物部門」「和え物部門」「朝食・付け合わせ部門」に分けて栄養治療室内で応募を呼びかけ、第一位に輝いた献立を患者さんに提供することにして投票を行いました。

合計46種の応募があり、11月には主菜部門第一位の「巻かないロールキャベツ」を患者さんに提供しました。今後も、コンテストで選ばれた新しい献立を提供していきます。

栄養治療室は、病院の管理栄養士10名と病院給食業務の委託先である日清医療食品の調理師・調理員など約45名、総勢55名で患者さんの食事提供、栄養管理を行っています。今回開催したレシピコンテストは、日清医療食品の調理員の発案です。一人で考えていても思いつくことには限りがありますが、全員で協力し、患者さんに喜んでいただける食事を今後も提供できるよう努力をしております。また、日頃、患者さんと直接関わることのない調理師・調理員にとって、自ら考えた献立で患者さんに喜んでいただけることは、モチベーションの維持につながります。

患者さんからの「おいしかった」の一言は毎日の業務の励みとなり、厳しいご意見も献立を見直すきっかけとなります。今後も、患者さんに満足いただけるよう、また、治療に貢献できるよう食事提供を行ってまいります。



11月に提供した「巻かないロールキャベツ」

問合せ先 栄養治療室 TEL: 0853-20-2074



# ご報告

## 松江赤十字病院との

パートナーシップ・ナーシング・システム

# PNS<sup>®</sup>の相互監査を行いました



看護部 業務効率化委員会

2024年10月25日(金)に当院から松江赤十字病院へPNS<sup>®</sup>(※)監査に訪問し(写真1)、12月6日(金)に松江赤十字病院より監査を受けました(写真2)。

この相互監査の目的は、『PNS<sup>®</sup>がマニュアルに基づき実施できているかに加え、他施設からの客観的な評価を看護の質改善につなげる』です。松江赤十字病院への監査訪問では、他施設の取り組みを直接評価し、改善点を指摘することで、監査者のPNS<sup>®</sup>に対する理解がさらに深まりました。また、当院が監査を受けた際には、「看護師長とリーダーと一緒に患者さんのベッドサイドに巡回できており、リーダーやスタッフの教育につながっている」、「看護サマリの記載が2週間以内に100%達成されており、継続看護に役立っている」、「副看護師長を中心としたグループ活動の推進をしてくるとよい」、「業務調整場面でのリーダーのマネジメント力が高まるとよい」など改善につながる講評もいただきました。

今回の監査結果を看護部全員で共有し、さらに質の高い看護が提供できるよう、改善活動に取り組んでまいります。



写真1  
松江赤十字病院での意見交換会(当院→松江赤十字病院)

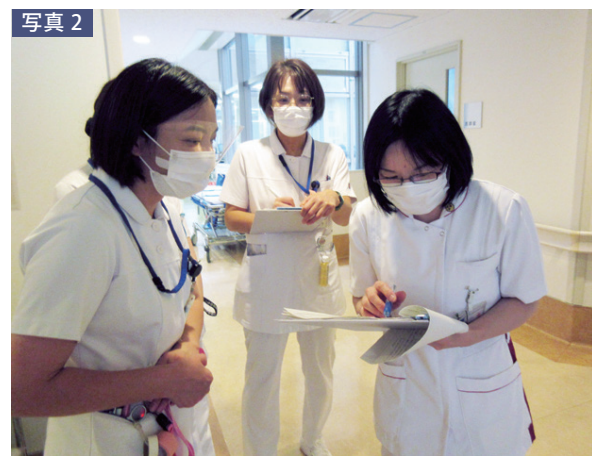


写真2  
当院での監査の様子(松江赤十字病院→当院)

(※)PNS<sup>®</sup>とは：看護師が安全で質の高い看護を共に提供することを目的とし、2人の看護師がよきパートナーとして対等な立場で互いの特性を活かし、毎日の看護ケアケアを始め委員会活動、病棟内の係の仕事に至るまで相互に補完し合い、その成果と責任を共有する看護提供方式のこと。

問合せ先 看護管理室 TEL：0853-20-2478



# ご報告



## 学長と医学部学生の懇談会を行いました

学務課学生支援担当

12月24日(火)、出雲キャンパス内国際交流ラウンジにおいて、島根大学大谷学長と医学部学生との懇談会が開催されました。大谷学長は、普段松江キャンパスの大学本部で職務に従事しているため、出雲キャンパスで学生生活を送る医学部生と交流する機会は多くありません。そのため当懇談会は医学部生にとって貴重な機会となりました。

懇談会には大谷学長および石原医学部長、そして医学部学生11名が参加し、学生生活に関することや学問に関すること、学生から大学に対する要望など様々な意見を交わしました。参加した学生の中には、4年前に大谷学長が医学部の教授として担当されていた講義を受講していた学生もいました。そのため思い出話にも花を咲かせながら、終始和やかな雰囲気での懇談会となりました。

大谷学長からは、総合知の集積としての大学の役割、地方中規模校としての島根大学の強み、地域から期待されている医学部生としての心構えなど、学生にとって示唆に富む話がありました。

松江キャンパスと出雲キャンパスは物理的に離れていますが、大谷学長自ら頻繁に出雲キャンパスに足を運び、両キャンパスが一体となって全学的に同じ方向を向いて前進できるよう尽力しています。今後も定期的に医学部学生との交流の機会を作っていきたいと考えています。

これからも全学の学生・教職員が一丸となり、地域の皆様に貢献していく所存です。

問合せ先 学務課学生支援担当 TEL：0853-20-2088





島大病院ニュース 2025年2月

# お知らせ

## 早期警戒スコアを活用した急変予測システムの構築

医療情報担当 副看護師長 いけど ひろゆき 生土 博之

当院は高度急性期病院として、重症化しやすい患者さんが多く入院しており、スタッフは日々、重症化回避や早期回復を目指した援助を行っています。研究によれば、病院内で心停止を起こした患者さんの多くは、その6～8時間前に予兆が現れるとされており、早期発見が重要です。

そこで注目されているのが「早期警戒スコア (National Early Warning Score : NEWS)」です。この評価法は、「呼吸数」「酸素飽和度」「酸素投与の有無」「体温」「血圧」「脈拍」「意識状態」の7項目をスコア化し、合計点が高いほど急変リスクが高いことを示します。NEWSは客観的データに基づいており、看護師の経験年数に関わらず活用可能な評価方法です。

当院では、この7項目の数値を電子カルテから抽出し、患者さんのNEWSを自動計算・可視化するシステムを開発中です。具体的には、NEWSが高い患者さんを随時確認できる個別表示画面(図1)や、病院全体を俯瞰して急変リスクの分布を把握できる統合画面(図2)を構築します。高リスクの患者さんは赤や黄色で表示されるため、視覚的に即座に状況を把握可能です。また、医療スタッフ間での情報共有も円滑になり、全体的なケアの質向上にも寄与します。

このシステムを通じ、患者さんの急変を予測し、早期の対応を可能にすることで、安全・安心な医療提供に貢献してまいります。

問合せ先 情報管理室 医療情報担当 TEL: 0853-20-2075

図1 個別表示画面

NEWSスコア	呼吸数	酸素飽和度	酸素投与の有無	体温	血圧	脈拍	意識状態
8	16	92	あり	36.5	100/60	90	GCS E4V5M6
8	14	95	あり	36.8	110/70	80	GCS E4V5M6
7	12	98	あり	37.0	120/80	70	GCS E4V5M6
7	10	100	あり	37.2	130/90	60	GCS E4V5M6
5	8	102	あり	37.5	140/100	50	GCS E4V5M6
5	6	104	あり	37.8	150/110	40	GCS E4V5M6
5	4	106	あり	38.0	160/120	30	GCS E4V5M6
4	2	108	あり	38.2	170/130	20	GCS E4V5M6

図2 統合画面(一部抜粋)

NEWSスコア	呼吸数	酸素飽和度	酸素投与の有無	体温	血圧	脈拍	意識状態
8	16	92	あり	36.5	100/60	90	GCS E4V5M6
8	14	95	あり	36.8	110/70	80	GCS E4V5M6
7	12	98	あり	37.0	120/80	70	GCS E4V5M6
7	10	100	あり	37.2	130/90	60	GCS E4V5M6
5	8	102	あり	37.5	140/100	50	GCS E4V5M6
5	6	104	あり	37.8	150/110	40	GCS E4V5M6
5	4	106	あり	38.0	160/120	30	GCS E4V5M6
4	2	108	あり	38.2	170/130	20	GCS E4V5M6



島大病院ニュース 2025年2月

# お知らせ



## 模擬患者さんを募集しています!

病院医学教育センター/クリニカルスキルアップセンター  
ひろい なおき  
センター長 廣井 直樹

模擬患者とは、「特定の症状を持つ患者さんを再現し、リアルに演じることができるようトレーニングをされた人」と定義され、現代の医療者教育では、欠かせない存在となっています。医学生や看護学生の医療コミュニケーションや診察技能の学修だけでなく、医療者以外の視点を知るために模擬患者の方々の協力が欠かせません。

本学では66名の模擬患者さんにご登録いただき活躍していただいておりますが、2024年度から模擬患者養成プログラムを進め、授業や試験等の教育に協力して下さる模擬患者の養成に取り組んでいます。講習会では、島根大学医学部の教育理念や医療者教育を取り巻く状況など、本学の医学教育に関する基本的なことから、練習用シナリオの読み合わせやロールプレイなど実践的な内容まで、4日間で学修します。本年度の講習会を受講される方の募集締め切りは、4月初旬を予定しております。学修スケジュール等詳細については、スキルアップセンターのHP(下記QRコード)にてご確認ください。

模擬患者活動に興味・関心のある皆様のご参加をお待ちしております。興味のある方、興味はあるけどご不明な点やご心配事がある方は下記までご連絡、ご相談ください。



問合せ先  
クリニカルスキルアップセンター  
模擬患者養成担当(高橋、大和田)  
TEL 0853-20-2551  
skill-up@med.shimane-u.ac.jp  
センターHP



2025年2月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年2月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ

## 地域の医療者と医学生で作る エコー教育モデルのご紹介

総合診療医センター 医師  
センター長

えんどう たけし  
遠藤 健史  
しらいし よしひこ  
白石 吉彦

写真1

地域から多くの先生が来られ、本格的に学ぶことができました



先輩に気軽に質問できて、ありがたかったです

当センターは、全身の愁訴に対応する総合診療力を育成するため、高度総合診療力修得コースを開催してきました。2022年度から開始した本コースは5つに分かれ、地域医療に触れる、診療スキルを学ぶことなどを目的としています。今回はその中から超音波診断装置（エコー）を活用した教育を紹介します。

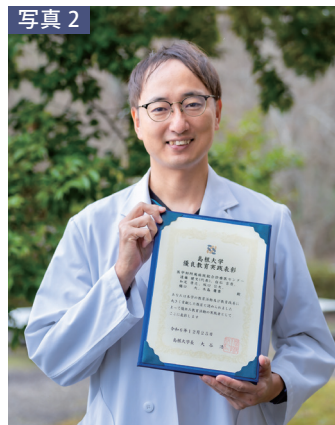
エコーは被ばくがなく、持ち運び可能なため病院でも在宅でも、どこでも重宝する検査機器です。また検査対象は全身であり、このエコースキルを習得することで幅広い診療ができるようになります。

コースは、各回2時間で年間20回の正課授業として行われています。学外から地域医療に携わるエコー指導者を招聘することに加え、学びを深めた学生5名程度をアシスタントとして雇用し、学生同士で教え合う「near peer teaching」を導入しました。これにより質問しやすい環境と仲間同士で切磋琢磨するモチベーションを生み、受講生の高い評価を得ています（写真1）。

アシスタントは今期で3代目に引き継がれ、学生が自主的に学び合う、持続可能な教育モデルとなりました。そしてこの仕組みが評価され、令和6年度の島根大学優良教育実践表彰を受けることができました（写真2）。

今後も地域医療に貢献する総合診療教育を発展させてまいります。

写真2



総合診療医センター 遠藤医師

問合せ先 **総合医診療センター TEL: 0853-20-2217**

